

教育を広く届ける(1)



オンライン授業の体験を自らの今後に活かす

オンライン教育を振り返る

これからのコミュニケーションを考える

『対面 > オンライン』であり続けるのか？

学校・教師の課題

技術/技能を越えた課題

教室とオンラインとの比較

ただし、**オンライン=資料提供+リアルタイム+ビデオ閲覧を同時に満たす**とする

比較項目	教室	オンライン
未経験者/未就学者の育成	学習作業を仔細に観察していれば、小さな躓きを越えるアドバイスが可能	相手からの何らかのアピールがないと「わからない」ことが把握できない
黒板や提示資料が見せる	「見えてる」学生はわずか	タブレットで拡大して「誰にでも」見せられる
伝達性	技能の伝達とチェックはしやすいが、主体的参加者でないと伝わらないのは双方同じ	知識の伝達ははずば抜けている。スポーツ/美術/演奏/演劇指導には相当工夫が必要
手応え	雰囲気から読み取れることがあるが、残された課題が曖昧になることも少なくない。	予め、何らかの質問や応答手段を決めて伝えておく必要がある（技術的開発も必要）
質問しやすいか	人前で質問するのは双方憚れるが、『終了後』に質問できる者がいる（同じ質問が多い）	質問形態はチャット/メール/Slidoなど多様で質問しやすい（リアルタイムで複数質問が受けられ、その場で回答可能）
議論ができるか	司会者と参加者次第	同じく、司会者と参加者次第
◎ 障害者対応	個々には困難。別クラスで別手法を用意	リアルタイム字幕、資料拡大などで可能

様々な論点を書き出して検討してみよう。補完し合う諸点にも注目

世界中で強要された

オンラインミーティング



ビデオ会議



画面共有



ファイル共有



プライバシー
セキュリティ

主な会議システム



情報交換なら「会食」でなく
オンラインで十分

スライドを読むぐらいなら
印刷して配って欲しい

でも、従来の



とどう違うの？



見えてきた素朴な疑問

- 世の中は**エッセンシャルワーカー**によって支えられているのが判明

ゴミ清掃、医療・介護・保育

郵便・宅配、生活小売、自治体職員

交通・運輸、農水産



労働・産業、教育

ICTを使って地域を超えた活動が続けられていたのに

<https://ja.khanacademy.org/>

<https://www.edx.org/>

<https://ja.coursera.org/>

<https://ucla.jp>

<https://www.cccties.org>



『ブルシット・ジョブ
クソどうでもいい仕事の理論』
D. グレーバー (岩波書店)



- なぜ**教育の公開** (とくに高等教育) ができないのだろうか？

大学関係者に多いのが大変皮肉だ



- それでも『対面 > オンライン』という言説が振りまかれている

富の分配の失敗、対立の激化を煽ったのは事実

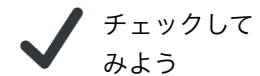
グローバル化と言いながらも

- **ICT革命に失敗**したあげくに、いまさらデジタル庁って？

学校が無条件で楽しい段階

学校で勉強する

『小・中学校』は現在でも極めて大きな意味がある
知らなくてよい = 何でも教えてくれる = 場所への案内をしてくれる



- 一緒に学んで読み・書き・計算ができるようになる
- 人との交流で知識を越えた社会性を獲得する
- 大人たちの深い配慮が生きる勇気と希望を肯定する
- 世界の広さを知り、さらなる好奇を深める喜びを知る
- 人格形成の重要な発展時期に重なる

何度でも丁寧に教えてくれるから

目標が必要

聴いて勉強する

馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない。

ヒトは渇きがあれば自分から水を飲むという喩え『目的があれば必ずと行動する』

アドラー心理学

『ラジオ講座』は大きな学習成果をもたらしていた

- 聴く側に既に確固とした目的がある
- 質の高いテキストが用意されている
- 教室では得られない高い緊張感
- 学びたい者すべてに開かれ、無料で受講できる

✓ チェックして
みよう

NHK **ゴガク**

語学講座アプリ

思い立ったその日から始められる

なんども失敗してきたけど野望だけはある

以前からテレビ/ラジオは活用されてる

<https://www.nhk.or.jp/school/>



<https://www.ouj.ac.jp>

- 高度なテキストを使う

通信制大学・大学院



「**独学者**」は勉強の方法も課題もすべて自分でクリアしていかねばならない。結果として、理解や問題解決能力は高くなる（目的意識を維持して勉強し続けることは簡単ではない）。

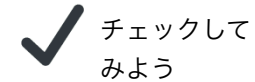
ソクラテスもカントはもう居ない、そもそも学校に行かなくても

強い方向性が必要

読んで勉強する

『図書館』は大きな研究場所であった

知らない = 読んでない・考えてない ≠ 習ってない



- 識字力さえあれば誰にも開かれ、無料で読める
- 読むべき書物があるか（指導・教育環境に依存）
- どう読むか（メモを取る/部分流し読み/最初だけ）
- 自発的に次に読むべき書物があるかは大きな試金石

心ある者の努力で古典文献や先端研究へのアクセスは容易になった

学習や人格の基本形成は高校までに完了（のハズ）

文部科学省「中学及び高校学習指導要領」総則

高等学校修了は各校の判断に任されている

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむ。生徒の学習習慣を確立。

フランス「哲学教育指導要項」（1925）『ヴェーユの哲学講義』の訳者「あとがき」から

現在のバカロレア（高等学校修了の国家認証試験）の本試験は哲学8/口頭試験10/専門2科目16の配点指数

知的努力をつうじて、それまで生徒の学んできた理科系・文化系の学習自体の有効性と価値とをよりよく把握させ、それらのいわば総合を可能にする。生徒が高等中学をおえて人生に第一歩を踏み出すに際し、生徒が思索の方法および知的・道徳的生活の若干の基本的原理を身につける。

● 大学教育は「昨年までマトモ」だったのか？ ●



『ヴェーユの哲学講義』

シモーヌ・ヴェーユ (ちくま学芸文庫)

聴いてみたかった！

シモーヌが女子高等中学で行った哲学クラスの講義を生徒の一人が筆記したノート。

兄のアンドレ・ヴェイユは20世紀を代表する数学者の一人。

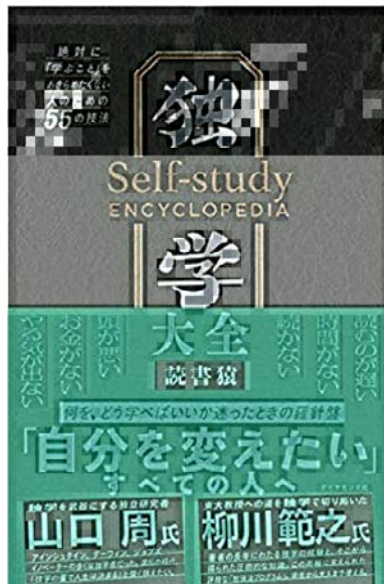
オンライン授業でパンドラの箱が開いた

まあ、そうは言ってもねえ 🥲

幸せに生きて豊穡であるために学びの必要性を実感できない
学校制度はそこからハミ出し・こぼれた者に冷淡に働く危うさも

× 自己責任? ←

何が深い学びへと個人を駆動するのだろうか？



『独学大全
絶対に「学ぶこと」をあきらめ
たくない人のための55の技法』
読書猿 (ダイヤモンド社
2020)

学びの自由

内なる弱さと暗部への対峙

自らの解放と美の発見

→ 問いかけるのは自分だけだ



ちょっと待った!

勉強する側の問題だけじゃない

プレゼンのための授業 \neq スライド作成とならないように
工夫したけど、オンラインという状況を想定できなかった

そんながあるなら
誰も苦勞しないさ

プレゼンを成功させる

プレゼンの原則と技法・注意点

水谷正大

Masahiro Mizutani

聴衆あってこそ

- ・ プレゼンの**目的を忘れない**
 - 限られた時間内に聴衆の理解を納得を得ること
- ・ 聴衆が**集中できる時間**は多くはない
 - 重要ポイントか、参考提示かを明確にする
- ・ 緩急をつけて聴衆を**飽きさせない**工夫
 - 分かり易さ
 - 興味を持続または惹起させる
- ・ **礼儀**は大切

Masahiro Mizutani

提示資料は簡素に

図でわかることなら、長い書き言葉で表さない
概念やデータの相互関係を提示して混乱を回避
結論や提案は短くわかりやすく

配慮は必要
各種障害者、音声・ビデオ記録への工夫
音声を併用して視覚だけに頼らない

Masahiro Mizutani

聴衆に何をしたいかを明確に


- ・ プレゼンの目的を聴衆に理解してもらう
 - 何を伝えたいのか、何に賛同してほしいのか
- ・ タイトルを読んでも意図は伝わらない
 - プレゼンの意図、話がどこに向かうのか
 - 説得したいことを聴衆が理解しないと **始まらない**

聴衆は聞いてくれているのであり、
聞きたがっているわけではない
「これを理解してくれ」「これを分かってほしい」を浸透させる

Masahiro Mizutani

聴衆も参加した意義が欲しい

- ・ テーマに関する理解・洞察が深まる
- ・ 的確な判断材料が提示される
- ・ 新たな知見、ものの見方が得られる
- ・ モヤモヤ感が晴れ、視界が広がる
- ・ 新しい世界の扉が開かれる

 **参加してよかった**
お得感があった(^ ^)

Masahiro Mizutani

プレゼンの実施(1)

簡素に、理解しやすく

- ・ **提示資料**は極力少なく
 - ・ 多くの情報や新概念を一度に理解できない
 - ・ 質問に備えて十分な資料を用意しておく
- ・ **スライド**は**一瞬で把握**できるように簡素に
 - ・ 多くの文字・図表を詰め込まずに、**大きく**
 - ・ ことばは**短く**、浸透・理解できる程度に**丁寧に**
- ・ **余り時間**は質問や議論に有効活用する

Masahiro Mizutani

ソクラテス/プラトンの時代
は弁舌だけだった!

プレゼン技法の多様化

プレゼン=スライドソフトの発想はもう止めよう

● スライド専用ソフト

 Googleスライド  Keynote  PowerPoint

● Zoomingプレゼンテーション Prezi <https://prezi.com/> 大谷翔平君の目標設定 😓 <https://prezi.com/view/4isC0rJ9AwU0hnaLRTyf/>

● Markdownで書いてHTMLとしてWebで閲覧

● L^AT_EX + Beamerで美しい数式を含むスライド

● Notionや GoodNotesを使う

プレゼンの実施(2)

浸透する言葉で

- ・ 熱意を持って
 - ・ 伝えたいことを情熱をもって
 - ・ 参加した聴衆への感謝も
- ・ 結論は最後にも繰り返す
 - ・ プレゼンの目的と結論を再確認
- ・ 質問ができる/期待させるプレゼンを演出する
 - ・ 質問を上手に導く
 - ・ 興味がないプレゼンには誰も質問しない

オンラインを過小評価していないか

- 映画やTVドラマ(オンライン)に感動し泣く
- 再生音楽を聞き、MTVを見て熱狂する
- 地の果ての光景・風土に憧憬と冒険心を掻き立てる

十分に練られたシナリオ（個人）と制作チーム作業（共同）
 デザイン構成と編集技能（古くても素晴らしい作品）
 長年のノウハウの蓄積と研究、他分野の技術の取り込み

学校・教員が開発/研究すべきことは多くある

- 学校に来れない者に教育を授ける努力をしているか

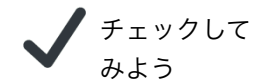
授業資料・テキスト草稿の公開

担当者間の情報交換、課題/試験の共有

新技術への実験と導入

身体・視聴覚者との境目のない学び

ビデオ収録と配信の組織的取り組み



- 遠くから声掛けだけでもしてくれたら助かる者がいる

複数の情報交換手段（メール・LMS・Twitterなど）

機械学習する学生ポートフォリオ管理システム

Video Presenceの向上を目指そう

遠くにも多くの人に的確に伝えること

ビデオ/ライブ画面の中で、人々に何かをうまく伝えたり人に理解を求めたり説得する、**プレゼンテーションが本来もつべき姿を拡大する**

ラジオの発話、TVニュースやワイドショーを研究してみよう

- 表情や仕草を**自己理解**し
- 分かりやすく**説得的な挙動**によって

Steve Jobs (1955-2011)

Stanford大学の祝辞
http://www.youtube.com/watch?v=87dqMx-_BBo
 his last public speech in Apple Events
<http://www.apple.com/apple-events/wwdc-2011/> from 79min

文字がきわめて少ない 画像が効果的 大切な情報は自身によって語られる

プレゼンの主役は話者。そこに注目が集まる

Masahiro Mizutani

- 目的に合致する**資料を多面的に**提示し
- データとしていつでも**再生可能**にする

著作権に注意

必ずしもYouTuberを推進する記述ではありません

YouTube+R を「職業」としてみなす人が増えている
 YouTubeパートナープログラム（収益化プログラム）への加入条件
 (2018)は、過去12か月間の総再生時間が4,000時間以上、かつチャ
 ンネル登録者数が1,000人以上を満たすことが必要。